

11月24日に行われました第49回堺体操選手権後にコメントいただきましたので、協会として解答させていただきます。

【競技運営について】

今回は、社会人から小学生にまでの参加があり、競技会の翌日が平日であることもあり、閉会式も含めて19時終了を目標に運営してまいりました。数分の遅れはありましたが、ほぼ計画通り実施できたと考えております。運営は秒単位ですすめております。

大会が長時間にわたることは次の理由によります。

- ① 体操競技は、男女合わせて10種目があり、その設営は、体育館の開館時間より役員、顧問、選手総出でおこないます。選手の安全を確保するためにひとつひとつ確認をしていく必要があります。
- ② 選手の安全のために競技前に会場練習を入れる必要があります。これも短縮のために限られた時間を設定しておこなっております。直前の練習はひとり30秒を目途に設定しております。
- ③ 審判の得点算出にも時間が必要ですが、いち演技につき90秒ほどで得点を出していただけるように審判にも協力していただいております。難度(Dスコア)演技点(Eスコア)の算出もありますが、審判には努力していただいております。
- ④ 9月に行われたバッジテストを受験した選手は、エントリーすれば全員出場を認めています。バッジテスト得点上位者に限れば人数制限ができるのですが、より多くの選手に競技会を経験してもらいたいと考えております。
- ⑤ 競技終了後には、器具の片付け、清掃は必須です。今回は、男子の競技が終了した時点で女子競技に影響の出ないように男子の片付けを始めました。また、安全面から滑り止め(炭酸マグネシウム)の使用は必須ですが、ゆかのふき取りをしなければなりません。選手ひとり1枚のぞうきんを準備してもらって全員で拭き掃除をしてもらっています。

器具の設営、片付けを別日にとる、練習会場を設定する、設営片付けに人を雇う、等をおこなえば、競技会自体の時間短縮は可能ですが、大会の予算は数十倍になります。それは、出場者への大きな負担となり、より多くの選手の競技会経験の機会を奪うこととなります。本協会の役員は、すべてボランティアです。今後もみなさんの協力を得ながら競技会をより多くの選手のためにすすめてまいりたいと考えております。

【競技記録のホームページ上への記載について】

本協会所属の団体への承認を得てホームページにあげております。以前は競技記録にパスワードをかけておりましたが、一昨年度より公開としました。FIG主催の競技会、日本体操協会、高体連、中体連、全日本ジュニア、すべての体操競技会で所属、名前、得点が公開されております。これらは、選手の活動履歴の証明となります。

個人の事情により、公開不可の場合は、団体の代表よりご要望ください。公開の得点表の

個人名を伏字にさせていただきます。

【撮影について】

観客席からの競技の撮影については、厚生許可書を取ったうえで首にかけて撮影していくこととしております。しかし、スマホの普及により徹底で来ていないと感じております。今回、注意喚起が徹底できていなかったことは運営として申し訳なく感じております。競技会場の特質上、入口の閉鎖などの処置をとることができません。警備員をつけることは予算上実現不可能です。この問題に関しては、役員会で協議の上、来年度の行事開催までに各団体を通じ、改善策を提示させていただきます。

また、女子レオタードに関しては、ユニタード(胴から脚までがつながったもの)の使用がFIGでも認められております。(ドイツの選手が競技会に着用) 日本のメーカーでも販売しております。所属団体でのユニホームの選定に一考していただければと思います。